

中部ESD拠点運営委員会（第18回）議事メモ

日 時 平成21年6月4日（木）18時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（8-C号室）

出席者 竹内委員長、寺井、羽後、今村、武者小路の各委員、

オブザーバー 石川、榊原、西尾など

事務局 古澤、酒井、岡本

議 事

1. 報告事項

◎「キャンパスエコマネー」に関して（第16回議事メモ参照）

愛知県環境部環境活動推進課課長補佐の西尾氏より、第16回運営委員会に引き続き、県の事業である「EXPOエコマネー事業」を発展させた「キャンパス・エコマネー」事業の説明がされた。加えて、NPO法人エコデザイン市民社会フォーラムの榊原氏より、第16回の運営委員会で示された、公募に関する詳細な企画案の説明がされ、拠点参加団体に加入している各大学への広報が依頼された。これらの説明を受けて種々意見交換が行われ、運営委員会としては、中部ESD拠点参加大学へはメールベースで告知を行うが、愛知県に対して、大学向けの説明会を開催することを要望した。

◎モントリオールの世界会議について

古澤事務局員より、以下の通り、モントリオールで開催されたRCE世界会議の報告があった。

- ・大陸別の会議では、生物多様性、学校教育、保健衛生など7つのテーマに分かれて議論を行った。生物多様性のグループは、昨年のバルセロナ以降、連携活動がはかばかしい成果を上げていないことが論じられた。このため、大きな企画に着手する前段階として実現可能なプランを考え、アジアのRCEで協働してポスターを作成することとなった。このポスターには、各RCEの生物多様性に関わる仮題と取り組みを書き込むこととした。とりまとめは、インドのコダグが行うこととなった。
- ・アジア地域の協議会を立ち上げることとなり、世話人を決めた。日本からの世話人に関しては、古澤を推薦する声もあったが、インフルエンザの影響で、日本からの参加者も少数であったため、持ち帰って国内で議論することとした。現在、日本からの世話人は空欄となっている。
- ・また、韓国のトンヨンで開催されたアジア・太平洋会議に次ぐ、次回のアジア・太平洋会議について議論を行い、開催が決まっている大きな国際会議と抱き合わせで行うことが検討されることになった。詳細は未定である。
- ・テーマ別会議「生物多様性」グループでは、サイバー対話を武者小路委員が提案し、賛同を

得た。また、国連大学がサイドイベントを開催することと、ブースの企画を実施することを提示した。加えて、今年は時間不足で協力を十分に求めることができなかった「グリーンウェブ」についても、今後、国連大学を窓口として RCE に呼びかけることが報告された。

- ・生物多様性グループの今後の活動に対して、二つのグループに担当を置いた。これらは、WEB チームと、企画を担当する「タスクフォースチーム」で、RCE 中部は COP10 開催地ということもあり、両グループの担当となった。

その後、武者小路委員から、RCE 世界会議のパネルディスカッションの報告と、以下の点についての補足説明があった。

- ・2009 年 3 月にボンで開催された ESD 中間年イベントで発表された、ボン決議を広めることが大切。
- ・ESD の E は単に教育ではなくて「総合学習」であり、環境問題、社会問題、経済問題をつなげることが重要。
- ・世界の拠点が生物多様性に関して、どんなところでどんなことやっているのかを示すこと必要である。

◎トヨタ環境活動助成プログラムの申請について

古澤事務局員より、メール審議で拠点として申請することになった「トヨタ環境活動助成プログラム」（「サイバー対話で繋ぐ！伊勢・三河湾流域圏の生物多様性と世界の地域的課題の相互学習」）の申請書が締め切り期日に提出されたことが報告された。

2. 中部ESD拠点連続講座の今後の進め方について

古澤事務局員より、6月3日に開催された第1回中部ESD拠点連続講座の報告がなされた。反省点として、準備の人手が足りなかったこと等が挙げられた。

また、今後の進め方として種々意見交換が行われ、第2回は7月22日（水）（竹内委員長による「地球憲章」に関する講座）に、第3回は9月29日（発表者、講座内容未定、日程変更の可能性有り）を予定することとした。

3. プロジェクト推進の進捗状況について

◎伊勢・三河湾流域圏プロジェクト

羽後委員より、現在伊勢・三河湾流域圏やESDに関係するであろう団体の情報を収集している段階であるとの報告がなされた。

◎生物多様性COP10への貢献事業

武者小路委員より、「サイバー対話事業」（第14回、第17回等の運営委員会議事録参照）の現状・課題について報告がなされた。報告内容は以下に示す。

[現状]

- ・5月14日の世界RCE大会(モンテリオール)にて、中部ESD拠点が提案したサイバー対話事業を、他のRCEと連携して実施することが決定した。

- ・国連締結国会議事務局とユネスコ生物多様性担当官が参加を希望している。
- ・言語は英語が中心だが、スペイン語（バルセロナ拠点が翻訳）、フランス語（モントリオール拠点が翻訳）でも行う。日韓中でも機械翻訳を介した対話を開始したい（黒岩委員に機械翻訳の専門家を紹介していただく）。
- ・原案では、2009年10月までをブレインストーミング、10月以降（国際準備会議の議論も参考に）2010年5月までをテーマ別対話、5月から9月にかけて対話結果の報告書を作成。
- ・現在、ゴダグ拠点（インド先住民）、グアテマラ拠点（マヤ民族）、チリー拠点（マプーチェ民族）、サスカチュワン拠点（イヌイット民族）、中部ESD拠点（アイヌ民族）等が先住民族間の対話に関心を示している。

[課題]

- ・日本語による対話については、まず生物多様性条約市民ネットワーク（CBD市民ネット）との協力体制を組み、昨年の札幌市民集会での「洞爺湖から名古屋へ」の参加団体や個人に協力を呼びかける。
- ・RCEのネットワークに呼びかけて、広くサイバー対話事業に参加する可能性がある個人（そのメールアドレス）を紹介してもらおう。（紹介する対象はRCEメンバーに限らない。）
- ・機械翻訳を含めて、対話のためのソフト・システム（例えばウィキ・システムの導入）を確立する。
- ・「トヨタ環境活動助成プログラム」の助成を受ける等、サイバー対話事業のウェブマスターや翻訳チーム、機械翻訳についての財源を確保する。
- ・正式に国連締結国会議事務局とユネスコに後援を依頼する。
- ・2009年の国際準備会議事務局、新聞紙編集部に連絡して、サイバー対話事業の中間報告を国際会議と新聞に発表して、次の段階に備える。（世界平和アピール七人委員会のアピールとアピールに向けた市民との対話集会の結果も報告したい。）

これらの報告を受けて種々意見交換等がなされ、次のアクションとしてCBD市民ネットとのネットワークや、国内のRCEとのネットワーク体制を構築することや、これらのアクションの原案を武者小路委員が次回運営委員会までに作成することとした。

4. その他

- ・竹内委員長より、愛知県より今年の8月にユース会議を開催するので、拠点参加団体に加入している各大学の学生から何人か候補者を出してほしい、との要請があった旨が報告された。
- ・参加団体の承認について
古澤事務局員より、「NPOたけとよ」より参加団体の申請があった旨が報告され、承認することとした。
- ・次回の日程について
次回、第18回運営委員会は、7月15日（水）に中部大学名古屋キャンパスで開催することとした。

以 上